

赤穂市教育振興基本計画検討委員会委員による意見について

* 外部委員からの意見提出＝12月17日締切分

区分	ページ	項目	意見等	主管課
A-1	1	現状と課題	「幼児」を「子ども」と表記を変更したのは、今回、「保育所」を含めたからだと理解できるが、2013年6月以降、文科省の公的文書では、「子ども」と表記してきたのを「子供」と変更している(ただし、法令等で「子ども」「こども」を使用する場合を除く。また、「子供」の使用を文科省が地方自治体・教育委員会等に求めているわけではない)。この文科省の表記変更が何を意味するかは必ずしも明らかではないが(「子供」は常用漢字であり、「差別用語ではない」という理由のようである)、赤穂市として「子ども」を使う場合には、その意味・意義について一定の共通理解をし、すべての表記を統一する必要があるのではないか。	こども育成課
A-2		現状と課題	(略) 今後は、赤穂市子ども・子育て支援事業計画に基づき、幼稚園での3歳児教育を実施するとともに、認定こども園への移行について、検討を進めます。 また、施設整備については、教育環境を充実するため、園舎整備をはじめ、教育方法の進歩に応じた教材や遊具などの計画的な施設整備をすることが必要です。	こども育成課
A-3	4	実践目標3 ①	遊具などを計画的に整備、維持補修、更新するとともに、(略) また、教育内容に応じた図書を計画的に購入し、図書の整備や充実に努めます。	こども育成課
A-4		主な目標指標	幼稚園舎の耐震化率が平成27年度には100%になることから、すでに実現した目標指標については、その到達した成果だけを記載してよいのではないかと(これは、目標に到達した他の指標も同様に扱う必要がある)。 また、新たに、とくに「保育所」の施設設備に関わる指標(あるいは幼保に共通する指標)を設けてはどうか。	こども育成課
A-5	5	実践目標4 ①	「子ども・子育て支援新制度※」の開始に伴い、就学前教育・保育を一体的に提供できる認定こども園が全国的に普及している中、本市においても、地区の状況に応じた認定こども園の導入を検討し、幼保一体化の推進に努めます。	こども育成課
A-6	7	現状と課題	本市では、体験的な活動を通して、いのちや人権に関わる豊かなこころを培う教育(以下「いのちや人権に関する教育」という。)(略)	指導課
A-7	8	実践目標1 ①	「はじめに児童生徒ありき」「授業を大切に」を合言葉に、指導方法の工夫改善等、教育課程の研究に取り組み、「わかる授業」はもちろんのこと「楽しい授業」を創造・推進することにより、児童生徒一人ひとりに質の高い学びや育ちを提供し、確かな学力の向上を図ります。	指導課
A-8		主な目標指標	「教育課程」の研究だけが、授業改善や学力向上につながるわけではないので、より広く、かつ正確に表現した方がよいのではないかと(たとえば、「教育内容、教育課程および教育方法・形態に関する研究」など。他方、「学校経営」「学級経営」などの研究も目標指標に入れることはできないか)。	指導課
A-9		主な目標指標	「困り感に寄り添う教育の研究に取り組む学校数」の目標値7校とは？ 大変すばらしい取り組みだと思うので出来れば小学校10校＋中学校5校の15校を目標にして頂きたいのですが？ 中学校こそ必要になってくるのでは？	指導課
A-10	9	実践目標2 ①	教職員としての使命感と高い倫理観を保持するとともに、豊かな人間性を涵養するため、計画的に研修を実施し、専門性と実践的指導力の向上を図ります。	指導課
A-11		実践目標2 ②	業務内容の見直しや校務の情報化、共有化等効率的な学校運営に努めるとともに、学校補助員等の採用や、部活等の課外授業について優秀な指導者を地域・学外から招聘する等、勤務時間の適正化を図り、教職員の心身の健康づくりを進めます。また、このことよって、児童生徒と向き合う時間を多く確保し、こころの通い合う教育を推進します。	指導課
A-12	10	実践目標	義務教育の中学校の充実のためには、「中高連携教育」の発想がなくてはならないのではないかと。そのためにも、「③中高連携教育の推進」を追加すべきではないかと(高校が県教委所管であることは承知しているが、とくに赤穂高校との連携は【赤穂高校との協議が必要であるが】、義務教育としての中学校教育の充実だけでなく、赤穂高校にとってもメリットのあることだと考える。また、p.31の「1 教育環境を整える (5)若い力を健全に育成する 実践目標4「学ぶ機会の保障」の①「高等学校の適正配置の要請」という目標ともかかわる重要な目標だと考える)。	指導課
A-13	11	実践目標4 ②	道徳教育を充実するために、規範意識をはじめ思いやりのこころ、生命の尊重などの道徳性を養う道徳教育を充実し、人権や福祉、伝統と文化、歴史を大切に教育を推進し、道徳的実践力の育成をめざします。	指導課
A-14		実践目標4 ⑥	いじめ・不登校・問題行動などについて、関西福祉大学等の関係機関と連携して対応するとともに、児童生徒及び保護者等を対象とした教育相談体制を充実し、児童生徒のこころを支えるシステムを充実させます。	指導課
A-15		実践目標4 ⑥	⑥「いじめ・不登校…教育相談体制の充実」の中に、SCやSSWの積極的な配置(を目指すこと)を明記した方がよいのではないかと。	指導課

赤穂市教育振興基本計画検討委員会委員による意見について

* 外部委員からの意見提出＝12月17日締切分

区分	ページ	項目	意見等	主管課
A-16	13	実践目標6 ①	子どもたちが外国語に触れたり、外国の生活や文化などに慣れ親しんだり、グローバル化に対応したコミュニケーション能力を身につけさせるため、文部科学省の動向を注視しながら、小学校における外国語活動(略)。また、中学生の海外派遣事業や外国語指導助手(ALT)招へい事業などを積極的に活用し、(略)。	指導課
A-17		主な目標指標	外国語指導助手の充実 平成32年度 5人(各中学校に1人) ※外国語指導助手を各校に1名以上適正配置する必要がある。	指導課
A-18	14	実践目標7 ①	多くの情報の中から、必要な情報を取り出し、整理し、効果的に活用できる能力の育成に加え、よりよいコミュニケーションのための判断力と心構えの育成や学校全体としての体系的な情報モラル教育を推進します。	指導課
A-19		実践目標7 ②	②情報を利用した教育の推進と創造 ICT(情報通信技術)化の一環として電子機器を整備し、ICT研修の実施等により、教職員のICT活用能力の向上を図るとともに、ICT化に対応できる補助職員の採用等により、情報機器と視聴覚機器を効果的に活用したわかりやすい授業を推進します。	指導課
A-20	15	実践目標8 ①	老朽化対策をはじめ、防犯カメラ、エアコン等、施設・設備の計画的な整備・改修を行い、児童生徒が安全で安心して学べる学校づくりを引き続き推進します。	総務課
A-21		実践目標8 ②	② 地球温暖化対策及び環境教育の推進 教育施設の改築・建替計画に際しては、地球温暖化対策及び環境教育の視点から、推進太陽光発電の導入やLED化等エコ化(省エネ改修等)を図ります。	総務課
A-22	16	その他	<p>現状と課題について 実践目標9「義士と教育」の充実 現状:国の基本計画に「義務教育終了までに、すべての子どもに、自立して社会で生きていく基礎を育てます」とし、基本施策・「豊かな心の育成」が書かれている。 課題:本市は、豊かな心の育成のために、「義士と教育」が義士検定により実施されている。最近、山鹿素行学が高く評価されている。より充実した方法として、素行の赤穂との歴史上、素行学活用は、赤穂のみではなく広く国内に向けて普及すべきです。</p> <p>基本方針について 「豊かな心の育成」対策として、赤穂山鹿素行研究会が活動している。 山鹿素行学を全国に紹介し活用の為、赤穂市、県や国の公的事業にする。</p> <p>施策の取組について 実践目標:山鹿素行記念館を建て素行学活用を全国に広める 「9 義士と教育の充実」は、豊かな心の育成が目的ですが、もっと有効な方法として、赤穂には、義士育成に関わった「山鹿素行」の歴史がある。山鹿素行は日本人は知っておくべき人物と、最近評価されている。赤穂高校の授業は「倫理」を選択されていない為か、素行学活用が見失われてきた。「大石良雄の肚」が最近出版の、小学校道徳教科書に掲載された。 「大石良雄の肚」理解には、大石が8歳から17歳まで素行から学んだ「<u>「</u>謫居童問」が有効です。 「謫居童問勉強会事業」を公的事業として活用拡大を願います。</p> <p><主な目標指標について> 1. 「赤穂山鹿素行会」を独立した公的教育機関とし、広報による事業紹介、機関誌発行。 2. 「謫居童問」から「素行のこぼれ朗読」を作成し学校で実施。(1, 2は本年度中) 3. 県・国の協力を得て、二ノ丸内に「山鹿素行記念館」建設を進める。(完成は5年後) 4. 記念館完成記念として全国藩校サミットを赤穂市で開催する。</p>	指導課 (文化財担当)
A-23	18	現状と課題	注釈のADHDの原語のチェック(4つの単語間にスペースを入れる)。	指導課
A-24		基本方針	2行目 (略)また、学校施設のバリアフリー化や障害に適應した教育を実施する上で必要とする設備・備品等の整備など、特別支援教育環境づくりを進めます。	指導課
A-25	20	実践目標2 ②	県立赤穂特別支援学校等との連携を密にし、特別な教育的支援を要する児童生徒が地域社会において自立し、積極的に社会参加できるよう、障害に応じた教育的支援を積極的に行います。	指導課
A-26	22	現状と課題	12行目 また、文部科学省の方針を踏まえて、保護者や地域住民が一体となって教育課題に取り組むコミュニティ・スクールを推進する必要があります。	指導課
A-27		基本方針	子どもたちの学習基盤が地域社会であることを認識し、学校園所・家庭・地域社会が一体となって、開かれた学校園所と地域社会との結びつきを強めていく施策を展開します。	指導課

赤穂市教育振興基本計画検討委員会委員による意見について

* 外部委員からの意見提出=12月17日締切分

区分	ページ	項目	意見等	主管課
A-28	23	実践目標1 ①	学校(園)評議員制度の活性化を図り、教育内容や学校(園)運営の状況等について(略)	指導課
A-29		主な目標指標	オープンスクールの年間参加人数について、幼稚園、小学校、中学校と分けて目標設定してほしい。学年があがるにつれ保護者の参加は低くなりつつあるが、裏には保護者の仕事復帰や案内不足(子どもが親に知らせない・案内が遅いので仕事が休めない等)の意見も聞こえる。また学年があがるほど行事ではなく普段の姿(生活風景など)を見たいという声も多いので、行事以外のオープンスクールも設定してほしい。	指導課
A-30	24	実践目標2 ①	(すでにあるのかもしれないが、)小・中の「ふるさと学習」の教材づくりを市教委・学校と関西福祉大学とで作成することを明記してはどうか?	指導課
A-31		実践目標2 ②	地区清掃や海岸清掃等の環境活動、(略)	指導課
A-32		実践目標2 ③	「高校・大学等との連携の充実」とし、とくに赤穂高校との連携について明記してはどうか。(当然、赤穂高校の了承を得る必要があるが、赤穂市の教育プランに私立大学である関西福祉大学との連携が出てくるのに、赤穂高校が明記されていないのは不思議な感じがする。)	指導課
A-33	25	実践目標2 ③	関西福祉大学、県立大学等との連携を強め、学習支援、生活支援、部活動支援などを通して幼児児童生徒の学びを支える教育内容を充実します。	指導課
A-34		主な目標指標	コミュニティ・スクールの実践校 10校	指導課
A-35	27	現状と課題	本市においても、少子高齢化や核家族化が進行し、それに伴って、人間関係だけではなく、地域とのつながりの希薄化が進んでいます。また、地域で大切に受け継がれてきた習慣や伝統的な行事がだんだん廃れるようになってきており、それに伴って、青少年ばかりか大人も、それらに参加する機会が少なくなってきています。その結果、青少年が大人と交流する機会も、少なくなってきています。さらに、身近な地域社会の中で、子育てについての相談や情報交換の場が少なくなっています。このように地域社会や家庭の持つ教育力が低下しているのが現実です。 (略) 今後は、次代の市民社会をになう自立した個人を育むために、(略)。また、青少年が社会の一員としての(略)	指導課
A-36	28	実践目標1 ②	不登校やいじめ、家庭環境等、様々な課題にいつでも対応できるよう、各校にスクールカウンセラーや心の教室相談員を配置などするとともに、スクールカウンセラー等と教職員とが連携して適切に対応していく体制を整備し、指導相談活動をより充実します。	指導課
A-37	30	実践目標3 ②	家庭は、すべての教育の出発点であるということを踏まえ、家庭の教育力の向上を図るため、子育て支援センター、民生委員・児童委員、健康福祉事務所などの関係機関と連携し、(略)。	指導課 (生涯学習課)
A-38		主な目標指標	「地域の子育てに関わるネットワーク」の目標指標を定めるべきである。	指導課 (生涯学習課)
A-39	33	現状と課題	1行目(略)公民館等で、様々な交流事業や	生涯学習課
A-40		現状と課題	・p.33の左側の「現状と課題」のうち、「図書館においては」の上の行までは、変更なしか。「赤穂市生涯学習推進計画」の策定途上であることを明記すべきではないか。 ・「赤穂市子ども読書活動推進計画」の後に、(平成24年2月制定)を入れた方がよいのではないか。	生涯学習課
A-41	34	実践目標1 ①	(略) 生涯学習推進計画については、兵庫県生涯学習基本構想、新兵庫県生涯学習推進計画等を踏まえて策定し、(略)	生涯学習課
A-42	35	実践目標2 ①	子育て学習センターに加え、幼稚園・保育所が「地域子育て支援センター」として「子育て支援・学習活動」を行うことを積極的に明記すべきではないか。(なお、将来的には、関西福祉大学内に、赤穂市との協働による「子育てカレッジ」を開設することが望まれる。)	生涯学習課 (こども育成課)
A-43		実践目標2 ②	少子化、核家族化や生活様式の多様化により、孤立し、不安定な生活を強いられ、発達段階において必要な体験を経ずに成長するといったことがないよう、児童館等とも連携し、専門的な知識や技能を有する(略)	生涯学習課
A-44		実践目標2 ③	訂正追加された文章では、国の「放課後子ども総合プラン」(平成26年7月31日文科省・厚労省の共同通知)との関係が不明瞭であるように感じる。「開所時間を含め効果的な方策…」と書かれると、アフタースクールのことだけを検討するようになるが、いかがか。 また、p.1で指摘したように、「放課後子ども教室」の「子ども」の表記について共通理解をもつ必要がある(文科省は、上記通知では「放課後子供教室」と表記)。	生涯学習課

赤穂市教育振興基本計画検討委員会委員による意見について

* 外部委員からの意見提出=12月17日締切分

区分	ページ	項目	意見等	主管課
A-45	36	実践目標3 ①	市民にとって最も身近な学習の拠点である公民館をはじめ、図書館、博物館等の社会教育施設において、市民のニーズを踏まえ、あらゆる世代の市民が意欲と生きがいをもって学習できる環境整備を進め、市民一人ひとりが主体的に参加できる学習機会の充実を図ります。	生涯学習課
A-46	38	実践目標5 ①	市民の身近な生涯学習拠点としての公民館は、市民への情報提供や各種講座などの開催、地域との連携の場として生涯学習事業が積極的に進められてきましたが、今後も、少子高齢化などにより一層その機能充実が求められています。このため、老朽化している公民館等については、ユニバーサル、バリアフリー化等の観点から、計画的に改修整備し、(略)	中央公民館
A-47	39	実践目標6 ④	読書活動を推進する取組として、市民ニーズに合った講座や教室を実施するとともに、ブック宅配や図書館情報の提供、ブックスタート事業、電子図書館サービスなど、サービスの充実を図り、市民が親しく利用できる図書館の充実に努めます。	図書館
A-48		主な目標指標	「図書館図書資料整備率」・・・注釈がほしい。また、目標を到達した指標については、その成果だけ記載することでよいのではないか(他の目標指標も同様)。	図書館
A-49	42	実践目標1 ①	(略)赤穂海浜スポーツセンターなどの拠点施設を整備するとともに、器具・備品等を充実します。	スポーツ推進課
A-50		実践目標1 ②	(略)東備西播定住自立圏域内の公共施設などを利用しやすくなるよう整備し、(略)	スポーツ推進課
A-51	43	実践目標2 ①	市民がそれぞれの目的・年齢・体力に応じてスポーツに親しみ、(略)	スポーツ推進課
A-52	44	実践目標3 ①	関西福祉大学ではサッカー部(男子)・硬式野球部・剣道部(男・女)・バレーボール部(男子)などを「指定強化クラブ」として定め、その強化を図ってきている。「大学(指定強化クラブの学生)との協力・連携」による、青少年スポーツ団体の育成・強化を図ることを明記してよいのではないか(大学にとっては「地域貢献活動」としても価値がある。)	スポーツ推進課
A-53	45	実践目標4 ①	地区の自然を活かした市民の健康づくりとして「赤穂街並みウォークラリー」などを開催し、健康づくりとともに、地区の自然・歴史などの様々な地域資源にふれあいながら楽しむことのできるイベントを開催し、市民の健康づくりを推進します。	スポーツ推進課
A-54	47	現状と課題	16行目 また、郷土に蓄積された先人の貴重な歴史・文化資料、美術品などの体系的な収集と保存を行い、それらを最大限に活用するため、展示公開と学習支援機能を持つ文化財センターの整備が必要です。	文化財担当
A-55		基本方針	(略)、さらに、収集、蓄積された歴史・文化資料、美術品などについては、市民等に積極的に情報提供するとともに、観光等の地域交流にも積極的に活用し、地域創生に役立てます。	文化財担当
A-56	50	主な目標指標	文化財センターの整備について、目標指標に入れるべきである。	文化財担当
A-57	51	実践目標4 ②	(略)PRを行うとともに、観光等の地域交流にも積極的に活用し、地域創生に役立てます。	文化財担当
A-58	53	現状と課題	2行目 (略)より質の高い本物の芸術にふれる機会の提供を行うとともに、(略)	生涯学習課
A-59	54	実践目標1 ①	3行目 またさらに、現存する国内最古の塩務局庁舎であった民俗資料館、海洋科学の知識普及の場である海洋科学館についても、収蔵品の整理及び展示内容の充実に一層努めます。揚浜式塩田、入浜式塩田、流下式塩田など、かつての製塩技術を復元した塩の国については、より利用しやすい環境を整えます。	生涯学習課
A-60	55	主な目標指標	文化会館自主事業の実施(有料公演回数)の平成32年(目標値)【20回】が、当初の平成27年度(目標値)【24回】よりも下方に修正されている理由は何か?	生涯学習課
A-61	56	主な目標指標	歴史講座の実施が、すでに目標(2回)に到達しており、今後も2回を目標とするならば、目標指数として掲げる必要はないのではないかと。そうであるならば、新たな目標指数を設定するか、あるいはp.16の「子どもの赤穂『忠臣蔵』検討の合格率」を再掲するなどの工夫が必要ではないかと。	生涯学習課